

令和4年度 東京工業大学 2次試験前期日程 (数学問題)180分
理・工・生命理工 数I・II・III・A・B 令和4年2月25日

問題 1 2 3 4 5

1 a, b を実数とし, $f(z) = z^2 + az + b$ とする. a, b が

$$|a| \leq 1, \quad |b| \leq 1$$

を満たしながら動くとき, $f(z) = 0$ を満たす複素数 z がとりうる値の範囲を複素数平面上に図示せよ.

2 3つの正の整数 a, b, c の最大公約数が1であるとき, 次の問いに答えよ.

- (1) $a + b + c, bc + ca + ab, abc$ の最大公約数は1であることを示せ.
- (2) $a + b + c, a^2 + b^2 + c^2, a^3 + b^3 + c^3$ の最大公約数となるような正の整数をすべて求めよ.

3 α は $0 < \alpha < \frac{\pi}{2}$ を満たす実数とする. $\angle A = \alpha$ および $\angle P = \frac{\pi}{2}$ を満たす直角三角形 APB が, 次の2つの条件 (a), (b) を満たしながら, 時刻 $t = 0$ から時刻 $t = \frac{\pi}{2}$ まで xy 平面上を動くとする.

- (a) 時刻 t での点 A, B の座標は, それぞれ $A(\sin t, 0), B(0, \cos t)$ である.
- (b) 点 P は第一象限内にある.

このとき, 次の問いに答えよ.

- (1) 点 P はある直線上を動くことを示し, その直線の方程式を α を用いて表せ.
- (2) 時刻 $t = 0$ から時刻 $t = \frac{\pi}{2}$ までの間に点 P が動く道のを α を用いて表せ.
- (3) xy 平面内において, 連立不等式

$$x^2 - x + y^2 < 0, \quad x^2 + y^2 - y < 0$$

により定まる領域を D とする. このとき, 点 P は領域 D には入らないことを示せ.

4 a は正の実数とする. 複素数 z が $|z-1|=a$ かつ $z \neq \frac{1}{2}$ を満たしながら動くとき, 複素数平面上の点 $w = \frac{z-3}{1-2z}$ が描く図形を K とする. このとき, 次の問いに答えよ.

- (1) K が円となるための a の条件を求めよ. また, そのとき K の中心が表す複素数と K の半径を, それぞれ a を用いて表せ.
- (2) a が (1) の条件を満たしながら動くとき, 虚軸に平行で円 K の直径となる線分が通過する領域を複素数平面上に図示せよ.

5 a は $0 < a \leq \frac{\pi}{4}$ を満たす実数とし, $f(x) = \frac{4}{3} \sin\left(\frac{\pi}{4} + ax\right) \cos\left(\frac{\pi}{4} - ax\right)$ とする. このとき, 次の問いに答えよ.

- (1) 次の等式 (*) を満たす a がただ 1 つ存在することを示せ.

$$(*) \quad \int_0^1 f(x) dx = 1$$

- (2) $0 \leq b < c \leq 1$ を満たす実数 b, c について, 不等式

$$f(b)(c-b) \leq \int_b^c f(x) dx \leq f(c)(c-b)$$

が成り立つことを示せ.

- (3) 次の試行を考える.

[試行] n 個の数 $1, 2, \dots, n$ を出目とする. あるルーレットを k 回まわす. この [試行] において, 各 $i = 1, 2, \dots, n$ について i が出た回数を $S_{n,k,i}$ とし,

$$(**) \quad \lim_{k \rightarrow \infty} \frac{S_{n,k,i}}{k} = \int_{\frac{i-1}{n}}^{\frac{i}{n}} f(x) dx$$

が成り立つとする. このとき, (1) の等式 (*) が成り立つことを示せ.

- (4) (3) の [試行] において出た数の平均値を $A_{n,k}$ とし, $A_n = \lim_{k \rightarrow \infty} A_{n,k}$ とする. (**) が成り立つとき, 極限 $\lim_{n \rightarrow \infty} \frac{A_n}{n}$ を a を用いて表せ.

解答例

1 $f(z) = z^2 + az + b$ について ($|a| \leq 1, |b| \leq 1$), $f(z) = 0$ の解は

$$z = \frac{-a \pm \sqrt{a^2 - 4b}}{2}$$

(i) $a^2 - 4b \geq 0$ のとき, 2つの実数解を

$$\alpha = \frac{-a - \sqrt{a^2 - 4b}}{2}, \beta = \frac{-a + \sqrt{a^2 - 4b}}{2}$$

とおく. まず, a を固定すると, $-1 \leq b \leq 1$ より

$$\frac{-a - \sqrt{a^2 + 4}}{2} \leq \alpha \leq -\frac{a}{2}, \quad -\frac{a}{2} \leq \beta \leq \frac{-a + \sqrt{a^2 + 4}}{2}$$

これらの解は, 閉区間 $\left[\frac{-a - \sqrt{a^2 + 4}}{2}, \frac{-a + \sqrt{a^2 + 4}}{2} \right]$ にある.

$-1 \leq a \leq 1$ より, 閉区間 $\left[\frac{-1 - \sqrt{5}}{2}, \frac{1 + \sqrt{5}}{2} \right]$ である.

(ii) $a^2 - 4b < 0$ のとき, 2つの虚数解を $\alpha, \bar{\alpha}$ とおくと, 解と係数の関係から

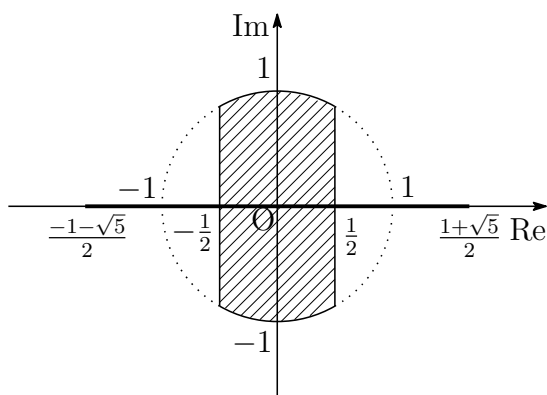
$$\alpha + \bar{\alpha} = -a, \quad \alpha\bar{\alpha} = b \quad \text{ゆえに} \quad \operatorname{Re}(\alpha) = \frac{\alpha + \bar{\alpha}}{2} = -\frac{a}{2}, \quad |\alpha|^2 = b$$

このとき, $-1 \leq a \leq 1, 0 < b \leq 1$ に注意して

$$-\frac{1}{2} \leq \operatorname{Re}(\alpha) \leq \frac{1}{2}, \quad |\alpha|^2 \leq 1 \quad (|\alpha| \leq 1)$$

したがって $-\frac{1}{2} \leq \operatorname{Re}(z) \leq \frac{1}{2}, |z| \leq 1$

(i), (ii) より, z のとりうる値の範囲は, 次の境界線を含む領域である.



- 2** (1) $A = a + b + c$, $B = bc + ca + ab$, $C = abc$ とおくと, a, b, c を解とする 3 次方程式は

$$x^3 - Ax^2 + Bx - C = 0$$

A, B, C が 1 以外の素数 p を因数にもつと仮定する (背理法).

a はこの方程式の解であるから

$$a^3 = Aa^2 - Ba + C$$

上式の右辺は p を因数にもつから, 左辺 a^3 は p を因数にもつ, すなわち, a は p を因数にもつ. 同様の議論により, b, c も p を因数にもつ.

これから, p は a, b, c の公約数となり, 条件に反する.

別証 $A = a + b + c$, $B = bc + ca + ab$, $C = abc$ とおき, A, B, C が素数 p を因数にもつと仮定する (背理法).

C が p を因数にもつから, a, b, c の少なくとも 1 つが p を因数もつ.

一般性を失うことなく, a が p を因数にもつと

$$b + c = A - a, \quad bc = B - a(b + c)$$

上の 2 式の右辺は, ともに p を因数にもつから, $b + c, bc$ は, p を因数もつ.

bc が p を因数にもつと, b, c の一方が p を因数もち, b が p を因数にもつとすれば, $c = (b + c) - b$ より, c も p を因数にもつ.

これから, p は a, b, c の公約数となり, 条件に反する.

(2) $D = a^2 + b^2 + c^2$, $E = a^3 + b^3 + c^3$ とおくと

$$D = (a + b + c)^2 - 2(ab + bc + ca)$$

$$= A^2 - 2B$$

$$E = (a + b + c)\{(a + b + c)^2 - 3(ab + bc + ca)\} + 3abc$$

$$= A(A^2 - 3B) + 3C$$

ゆえに $(*)$ $2B = A^2 - D$, $3C = E - A(A^2 - 3B)$

A, D, E が素数 q ($q \geq 5$) を因数にもつと仮定すると, $(*)$ の第 1 式から, B は q を因数にもつ. これを $(*)$ の第 2 式に適用すると, C も q を因数にもつ. このとき, A, B, C が素数 q を因数にもち, 条件に反する.

したがって, A, D, E の最大公約数は $2^m 3^n$ (m, n は 0 以上の整数) と表される. $(*)$ より, $2B, 3C$ は $2^m 3^n$ で割り切れるから, $m \geq 2, n \geq 2$ のとき, A は $2^m 3^n$ で割り切れ, B は $2^{m-1} 3^n$ で割り切れ, C は $2^m 3^{n-1}$ で割り切れる. このことは, A, B, C の最大公約数が 1 であることに反する. A, D, E の最大公約数を G とすると

$$G \subset \{1, 2, 3, 6\}$$

に絞られる. これら G の存在をすべて示せば十分である.

a	b	c	A	D	E	G
1	1	1	3	3	3	3
1	1	2	4	6	10	2
1	1	3	5	11	29	1
1	1	4	6	18	66	6

よって, 求める最大公約数となる正の整数は **1, 2, 3, 6** ■

- 3 (1) AB を直径とする円を C_t とする.
 $\angle P = \frac{\pi}{2}$ より, P は C_t 上にある.
 円周角の定理により

$$\angle BOP = \angle BAP$$

ゆえに $\angle BOP = \alpha$

直線 OP の偏角は $\frac{\pi}{2} - \alpha$

直線 OP の方程式は

$$y = x \tan\left(\frac{\pi}{2} - \alpha\right)$$

よって $y = \frac{x}{\tan \alpha}$

- (2) $\angle OBP = t + \left(\frac{\pi}{2} - \alpha\right) = \frac{\pi}{2} - (\alpha - t)$

$\triangle OBP$ に正弦定理を適用すると

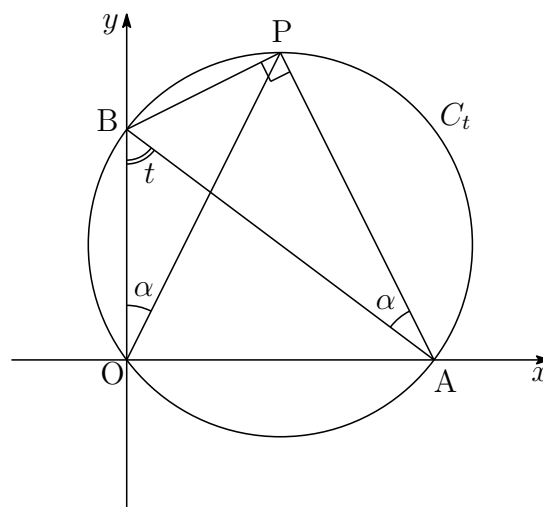
$$\frac{OP}{\sin \angle OBP} = 1 \quad \text{ゆえに} \quad OP = \sin \left\{ \frac{\pi}{2} - (\alpha - t) \right\} = \cos(\alpha - t)$$

$f(t) = OP$ とおくと, $f(t)$ は $t = 0$ から $t = \alpha$ まで単調増加,
 $t = \alpha$ から $t = \frac{\pi}{2}$ まで単調減少である.

$$f(0) = \cos \alpha, \quad f(\alpha) = 1, \quad f\left(\frac{\pi}{2}\right) = \sin \alpha$$

よって, 点 P が動く道のりを L とすると

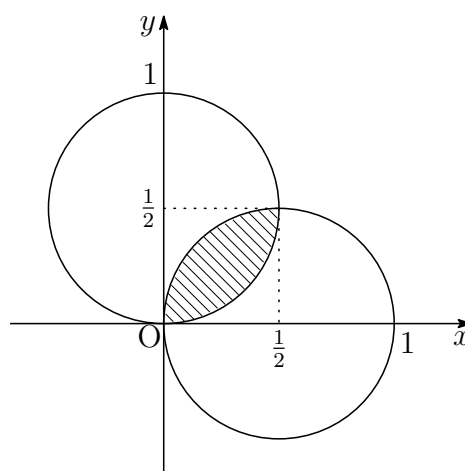
$$\begin{aligned} L &= \{f(\alpha) - f(0)\} + \left\{f(\alpha) - f\left(\frac{\pi}{2}\right)\right\} \\ &= 1 - \cos \alpha + (1 - \sin \alpha) = \mathbf{2 - \sin \alpha - \cos \alpha} \end{aligned}$$



(3) 与えられた連立不等式から

$$\begin{aligned} \left(x - \frac{1}{2}\right)^2 + y^2 &< \frac{1}{4}, \\ x^2 + \left(y - \frac{1}{2}\right)^2 &< \frac{1}{4} \end{aligned}$$

これを満たす領域 D は右の図の斜線部分である (境界線を含まない). 2点 O, P を通る直線を ℓ とし, ℓ と D の境界線の交点を Q とする.



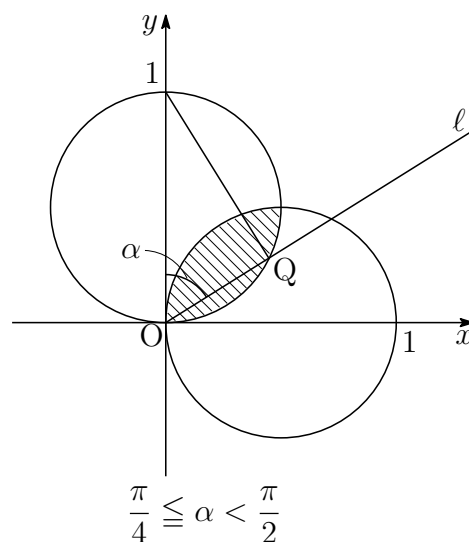
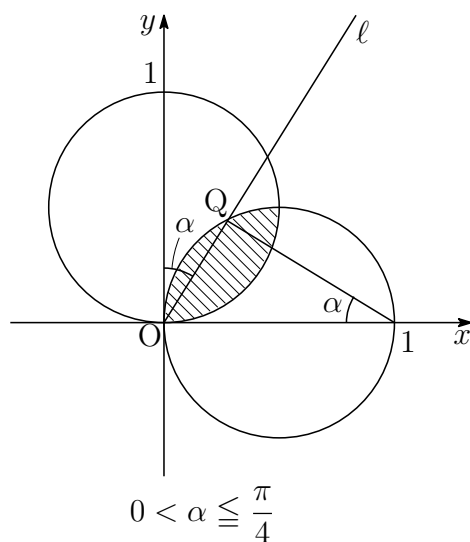
(i) $0 < \alpha \leq \frac{\pi}{4}$ のとき

$$OQ = \sin \alpha \leq \cos \alpha = f(0) < f(t) = OP$$

(ii) $\frac{\pi}{4} \leq \alpha < \frac{\pi}{2}$ のとき

$$OQ = \cos \alpha \leq \sin \alpha = f\left(\frac{\pi}{2}\right) < f(t) = OP$$

(i), (ii) より, 点 P は領域 D には入らない.



$$\boxed{4} \quad (1) \quad w = \frac{z-3}{1-2z} \text{ より } (2w+1)z = w+3 \quad w \neq -\frac{1}{2} \text{ であるから } z = \frac{w+3}{2w+1}$$

これを $|z-1| = a$ に代入すると

$$\left| \frac{w+3}{2w+1} - 1 \right| = a \quad \text{ゆえに} \quad \left| \frac{-w+2}{2w+1} \right| = a \quad (*)$$

上の第2式より $|w-2|^2 = a^2|2w+1|^2$

$$(4a^2-1)|w|^2 + 2(a^2+1)(w+\bar{w}) + a^2 - 4 = 0$$

$a = \frac{1}{2}$ のとき, $\operatorname{Re}(w) = \frac{w+\bar{w}}{2} = \frac{3}{4}$ となり, w は直線を表す.

$$a \neq \frac{1}{2} \text{ のとき } |w|^2 + \frac{2(a^2+1)}{4a^2-1}(w+\bar{w}) + \frac{a^2-4}{4a^2-1} = 0$$

$$\left| w + \frac{2(a^2+1)}{4a^2-1} \right|^2 = \frac{25a^2}{(4a^2-1)^2}$$

したがって, K が円である条件は $a \neq \frac{1}{2}$ かつ $a > 0$

$$K \text{ の中心 } -\frac{2(a^2+1)}{4a^2-1}, \quad \text{半径 } \frac{5a}{|4a^2-1|}$$

別解 $a \neq \frac{1}{2}$ のとき, (*) より $|w-2| : |w+\frac{1}{2}| = 2a : 1$

$a = \frac{1}{2}$ のとき, K は2点 $2, -\frac{1}{2}$ の垂直二等分線 $\operatorname{Re}(w) = \frac{3}{4}$

K は2点 $2, -\frac{1}{2}$ を $2a : 1$ に内分および外分する2点

$$\frac{1 \cdot 2 + 2a(-\frac{1}{2})}{2a+1}, \quad \frac{-1 \cdot 2 + 2a(-\frac{1}{2})}{2a-1}, \quad \text{すなわち} \quad \frac{2-a}{2a+1}, \quad \frac{-2-a}{2a-1}$$

を直径の両端とする円である.

$$\text{中心は} \quad \frac{1}{2} \left(\frac{2-a}{2a+1} + \frac{-2-a}{2a-1} \right) = -\frac{2(a^2+1)}{4a^2-1}$$

$$\text{半径は} \quad \frac{1}{2} \left| \frac{2-a}{2a+1} - \frac{-2-a}{2a-1} \right| = \frac{5a}{|4a^2-1|}$$

- (2) (1)の結果から, 2点 $-\frac{2(a^2+1)}{4a^2-1} + \frac{5a}{|4a^2-1|}i$, $-\frac{2(a^2+1)}{4a^2-1} - \frac{5a}{|4a^2-1|}i$ を結ぶ線分が通過する領域である. その領域を表す点を $x+yi$ とすると

$$x = -\frac{2(a^2+1)}{4a^2-1}, \quad |y| \leq \frac{5a}{|4a^2-1|}$$

上の第1式から $a^2 = \frac{x-2}{2(2x+1)} > 0$ ゆえに $x < -\frac{1}{2}$, $2 < x$

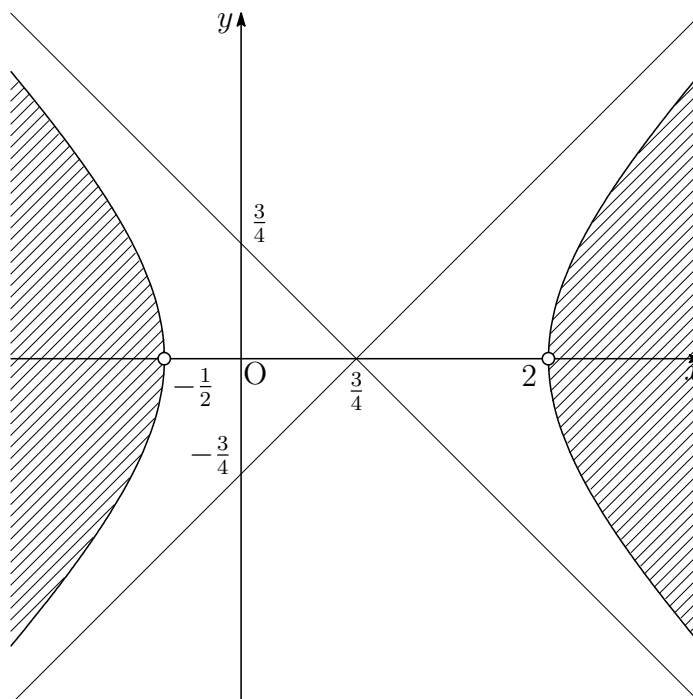
$$x + \frac{1}{2} = -\frac{5}{2} \cdot \frac{1}{4a^2-1} \text{ より } -\frac{2}{5} \left(x + \frac{1}{2}\right) = \frac{1}{4a^2-1}, \quad \frac{2}{5}|y| \leq \frac{2a}{4a^2-1}$$

$$\left(\frac{2}{5}|y|\right)^2 - \left\{\frac{2}{5}\left(x + \frac{1}{2}\right)\right\}^2 \leq \frac{4a^2}{(4a^2-1)^2} - \frac{1}{(4a^2-1)^2} = \frac{1}{4a^2-1}$$

$$\text{したがって } \frac{4}{25}y^2 - \frac{4}{25}\left(x + \frac{1}{2}\right)^2 \leq -\frac{2}{5}\left(x + \frac{1}{2}\right)$$

$$\text{以上の結果から } \left(x - \frac{3}{4}\right)^2 - y^2 \geq \frac{25}{16}, \quad x \neq -\frac{1}{2}, 2$$

求める領域は, 下の図の斜線部分で境界線を含む. ただし, \circ は含まない.



■

5 (1) $f(x) = \frac{4}{3} \sin\left(\frac{\pi}{4} + ax\right) \cos\left(\frac{\pi}{4} - ax\right)$ より $f(x) = \frac{2}{3} + \frac{2}{3} \sin 2ax$

$$\begin{aligned} \int_0^1 f(x) dx &= \int_0^1 \left(\frac{2}{3} + \frac{2}{3} \sin 2ax \right) dx \\ &= \left[\frac{2}{3}x - \frac{1}{3a} \cos 2ax \right]_0^1 \\ &= \frac{2}{3} - \frac{1}{3a} \cos 2a + \frac{1}{3a} \end{aligned}$$

$\int_0^1 f(x) dx = 1$ が成立するとき

$$\frac{2}{3} - \frac{1}{3a} \cos 2a + \frac{1}{3a} = 1 \quad \text{ゆえに} \quad a + \cos 2a - 1 = 0 \quad (*)$$

$g(a) = a + \cos 2a - 1$ とおくと $g'(a) = 1 - 2 \sin 2a$

$0 < a \leq \frac{\pi}{4}$ における $g(a)$ の増減表は

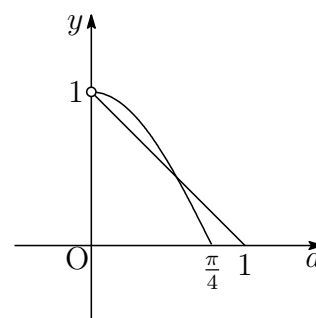
a	(0)	...	$\frac{\pi}{12}$...	$\frac{\pi}{4}$
$g'(a)$		+	0	-	
$g(a)$	(0)	↗	極大	↘	$\frac{\pi}{4} - 1$

$\frac{\pi}{4} - 1 < 0$ であるから, (*) を満たす a がただ1つ存在する.

別解 $0 < a \leq \frac{\pi}{4}$ において

$$\cos 2a = -a + 1 \quad (\text{A})$$

が満たす a がただ1つ存在することを示してもよい. $0 < a \leq \frac{\pi}{4}$ において, $y = \cos 2a$ と $y = -a + 1$ のグラフをかくと, 右の図から, (A) を満たす a がただ1つ存在する.



(2) $0 \leq x \leq 1$ において, $f(x)$ は単調増加であるから, $0 \leq b < c \leq 1$ について

$$f(b) \leq f(x) \leq f(c) \quad (b \leq x \leq c)$$

$$\int_b^c f(b) dx \leq \int_b^c f(x) dx \leq \int_b^c f(c) dx \quad \text{により, 次式が成立する.}$$

$$f(b)(c - b) \leq \int_b^c f(x) dx \leq f(c)(c - b)$$

$$(3) \text{ 定義から } \sum_{i=1}^n S_{n,k,i} = k \quad \text{ゆえに} \quad \sum_{i=1}^n \frac{S_{n,k,i}}{k} = 1$$

上の第2式および(**)が成立するとき

$$\int_0^1 f(x) dx = \sum_{i=1}^n \int_{\frac{i-1}{n}}^{\frac{i}{n}} f(x) dx = \lim_{k \rightarrow \infty} \sum_{i=1}^n \frac{S_{n,k,i}}{k} = 1$$

$$(4) S_{n,k,i} \text{ を用いて } A_{n,k} = \frac{1}{k} \sum_{i=1}^n i S_{n,k,i} = \sum_{i=1}^n i \cdot \frac{S_{n,k,i}}{k}$$

(**)を適用すると

$$A_n = \lim_{k \rightarrow \infty} A_{n,k} = \lim_{k \rightarrow \infty} \sum_{i=1}^n i \cdot \frac{S_{n,k,i}}{k} = \sum_{i=1}^n i \int_{\frac{i-1}{n}}^{\frac{i}{n}} f(x) dx \quad (\text{A})$$

ここで、 $b = \frac{i-1}{n}$, $c = \frac{i}{n}$ を(2)に代入した不等式を用いると

$$\begin{aligned} \frac{1}{n} f\left(\frac{i-1}{n}\right) &\leq \int_{\frac{i-1}{n}}^{\frac{i}{n}} f(x) dx \leq \frac{1}{n} f\left(\frac{i}{n}\right) \\ \frac{i}{n} f\left(\frac{i-1}{n}\right) &\leq i \int_{\frac{i-1}{n}}^{\frac{i}{n}} f(x) dx \leq \frac{i}{n} f\left(\frac{i}{n}\right) \end{aligned}$$

$$(\text{A}) \text{ より } \sum_{i=1}^n \frac{i}{n} f\left(\frac{i-1}{n}\right) \leq A_n \leq \sum_{i=1}^n \frac{i}{n} f\left(\frac{i}{n}\right)$$

$$\text{ゆえに } \lim_{n \rightarrow \infty} \frac{1}{n} \sum_{i=1}^n \frac{i}{n} f\left(\frac{i-1}{n}\right) \leq \lim_{n \rightarrow \infty} \frac{A_n}{n} \leq \lim_{n \rightarrow \infty} \frac{1}{n} \sum_{i=1}^n \frac{i}{n} f\left(\frac{i}{n}\right)$$

$$\lim_{n \rightarrow \infty} \frac{1}{n} \sum_{i=1}^n \frac{i}{n} f\left(\frac{i-1}{n}\right) = \lim_{n \rightarrow \infty} \frac{1}{n} \sum_{i=1}^n \frac{i}{n} f\left(\frac{i}{n}\right) = \int_0^1 x f(x) dx \text{ であるから,}$$

はさみうちの原理により

$$\begin{aligned} \lim_{n \rightarrow \infty} \frac{A_n}{n} &= \int_0^1 x f(x) dx = \int_0^1 x \left(\frac{2}{3} + \frac{2}{3} \sin 2ax \right) dx \\ &= \left[\frac{x^2}{3} - \frac{x}{3a} \cos 2ax + \frac{1}{6a^2} \sin 2ax \right]_0^1 \\ &= \frac{1}{3} - \frac{\cos 2a}{3a} + \frac{\sin 2a}{6a^2} \end{aligned}$$

■